

# カーセキュリティ最前線

## 2019.Spring

欧米諸国と比べると犯罪件数も少なく安全な印象が強い日本。しかし日々いたるところでは大小様々な犯罪が起こり、一歩間違えば被害に遭う危険性が誰にでもある。特に自動車犯罪に関しては普段の生活空間でも起こり得るもの。いかに被害者にならないかは、防犯意識と事前の備えが必須なのである。そこで今回は、自動車犯罪の現状と対策を紹介してみよう。



リレーアタックによる車両盗難からいたずら&車上ねらい  
最新自動車犯罪の傾向と対策を知る!

### 心得ておきたい 自動車窃盗の手法

自動車オーナーであれば誰にでも被害の可能性があるのが車上ねらいやいたずら、車両盗難といった犯罪。もちろんこれまでと同様の被害は数多く報告され、アフターパーツとしてのセキュリティシステムや自動車メーカーによる対策も常に更新され続けている。さらにオーナー自身の犯罪対策への意識向上もあって、警視庁の発表によるとここ数年では被害件数は大幅に減少の傾向にあるという。しかし、依然として犯罪被害はなくなっているというわけではなく、現在では犯罪の方向性が変わってきているのも実情だ。

昨年あたりからテレビニュースでも話題にのぼっているリレーアタック。その言

業を聞いたことがある人は多いものの、その手法に関してはまだ認識している人も多くはない。このリレーアタックは自動車窃盗を行う最新の手法だ。

現在主流となっているスマートキーはキー本体が常に微弱電波を飛ばしながら、有効範囲内を対象の車両がいた場合に通信を行うと方式が採用されている。リレーアタックはこの特徴を利用して微弱電波を特殊な機器を用いて増幅し、リレーのように中継しながら車両まで電波を飛ばすというもの。そのため、電波

を受けた車両は正式な鍵が近くにあると認識し、ドアロックの解除はもちろん、エンジンスタートも行えるようになるのだ。この手法を使うとクルマへの物理的な攻撃もないため、周囲からも犯罪を行っているように見えないことから、被害の認識が遅れてしまうというわけだ。

ちなみにリレーアタックの被害に遭うのは、最新のスマートキーを装備した車両がほとんど。それ

以前の車両ではイモビリッターが自動車窃盗の定番手法と言

われている。この手法は車両に搭載されるイモビライザーを特殊な機器を使って解除するというもの。もちろんイモビライザーも年々進化を果たしているため簡単には破ることは難しいとされるが、窃盗

犯の装備も対策につぐ対策が行われているためイタチごっこが続いているのが現状。特に90年代以降のスポーツカーなど、海外市場で人気のモデルが被害に遭いやすい現状を考えると、もはや純正のセキュリティ機能だけでは安心できない状況であることは間違いないのだ。

自動車窃盗は年々手口が進化し続けているが、車上ねらいの犯行は昔から大きく変わることはない。というのも対象の車内にかバンや金品など目ぼしいものがあつた場合、ガラスを破るなどの物理的攻撃を加える手口がほとんどである。中には無施錠状態が狙われることもあるが、多くの場合は車内に物を残した状態が狙われている。それを証拠に発生件数の推移も減少傾向にはあるが自動車窃盗ほど急激に減少しているというわけではない。そのため車内の見える場所にかバンなどを置かないことが防犯の大前提というわけだ。

### 自動車盗の認知件数の推移

平成25年	667件
平成26年	395件
平成27年	359件
平成28年	309件
平成29年	203件

### 車上狙い認知件数の推移

平成25年	5877件
平成26年	4982件
平成27年	4404件
平成28年	4372件
平成29年	3845件